

夏大豆新品種「フジムスメ」について

熊本 司・百島敏男・吉富 進
(佐賀県農業試験場)

KUMAMOTO, T., MOMOSHIMA, T. and YOSHIDOMI, S.
On the New Variety of Summer Type
Soy-Bean "Fujimusume".

1960年に本品種の育成を終り、和歌山県及び静岡県で奨励品種として普及されるに至ったので、その概要について報告する。

1. 来歴：1950年農林省佐賀農事改良実験所春日試験地で新三号（新潟）を母とし松浦（佐賀）を父として人工交配を行い、1951年改良実験所が廃庁になってからは佐賀県農業試験場で大豆指定試験事業として育成を続けた。この組合せの中で1955年西海6号の地方名を付した系統が関係各県で好成績をあげたので、1961年4月「大豆農林28号」に登録され「フジムスメ」と命名された。

2. 一般的特性：九州の夏大豆の収量が低いのは栽培法そのものにも可成りの問題点があるが、品種そのものにも大きな欠陥があり、在来種の多くが早熟なために草型が小さいことが致命的な要因となっている。従つて極多収品種の育成を行うには成熟期は多少晩くなつても草型の大型化を計る必要がある。かかる意味から上記の様な組合せを行つた。したがつて育成されたフジムスメは草型が大きい成熟期はやや遅い。即ちコガネダイズより2～5日晩熟で、九州の夏大豆では晩生種に属するIIa型品種である。生育旺盛で繁茂し、草丈が高く分枝が多いが、茎が太いので倒伏しにくい。莢付も良いがコガネダイズ程多くはない。花色は青味を帯びた紫色、毛茸は褐色、莢色は暗褐色で

ある。子実は九州の夏大豆中最も大きく、球型で品質は極めて良い。

3. 生産力：佐賀県農業試験場における1955～'60年の生産力検定試験の結果では最高28kg(1a当り)にも達し、コガネダイズと何等遜色のない極多収品種で、在来種に比べると20～40%も増収する。本品種は早播するほど増収するが晩播適応性も比較的高い。密植適応性は小型の在来の早生種に比べるとやや低い。ある程度密植するほうが増収する。

4. 適地：九州の夏大豆は最近になつてようやく中晩性極多収品種の要望が出始めたが、近年までは夏大豆は後作の関係もあつて早生種でなければ全くかえりみられなかつた。従つて本品種は九州各県への配布が遅れたため、九州各地における検討は充分ではないが、若干晩熟に過る嫌があり、特に播種慣行の遅い夏大豆地帯では晩播のため成熟期が著しく晩れて雨害、虫害を被り易いので今すぐに普及に移すことは若干危険であろう。

これに反し東海近畿地方では、現在普及奨励されている夏大豆は富士4号、夏大豆一号、タムムスメ等で、フジムスメとは同熟期か、また若干晩い品種であるので、本品種の成熟期については何等問題はなく、むしろ大粒品種を歓迎するこの地帯では好適な品種といえよう。

一般的特性

品 種 名	開花期		成熟期		莖 長 cm	分枝数	節 数	莢 数	花 色	莢 色	毛茸ノ色	脐 色	百粒重 gm	1a当り 収 量 kg	備 考
	月 日	月 日	月 日	月 日											
フジムスメ	6.23	8.25	6.23	8.25	46.8	4.8	13.0	88.4	紫色	暗褐色	褐色	灰白色	20.4	23.9	新 品 種 母 父 比 較 品 種
新 三 号	6.30	9. 1	6.30	9. 1	36.4	4.6	14.6	84.4	〃	褐色	〃	褐色	22.0	—	
新 松	6.22	8.19	6.22	8.19	53.0	3.6	12.1	83.2	白色	淡褐色	白色	淡褐色	15.6	19.9	
コガネダイズ	6.23	8.23	6.23	8.23	47.5	4.7	12.9	104.1	紫色	褐色	褐色	灰白色	15.5	23.8	
白 莢 一 号	6.20	8. 8	6.20	8. 8	38.6	4.3	12.9	62.9	〃	淡褐色	白色	褐色	14.9	12.6	

註：1) 1958～1960年の成績、但し収量は1955～1960年、新三号は1952～1953年の成績。

2) 播種期4月中旬、畦巾60cm、株間15cm、1株1本立の標準栽培。